

「確かな学力」を育む学習指導に関する研究

—国語科を中心とした「話すこと・聞くこと」の力を高めるための授業の工夫(3年次)—

I 研究の内容

1 授業研究

(1) 児童の教科の状況把握と改善すべき課題の整理

(令和2年度 NRT・CRT 検査結果分析(全学年)と課題の明確化)

(2) 研究授業

第3学年 国語科 「はんでいけんをまとめよう」

向山 紀子教諭

指導助言 峽東教育事務所 指導主事

中村 弘和先生

(3) 一実践授業

第1学年 国語科 ふたりで かんがえよう「これは、なんでしよう」

小河真由美教諭

第2学年 国語科 たいわのれんしゅう「ことばでみちあんない」

奥山 美恵教諭

第4学年 算数科 「角の大きさ」

野尻 政彦教諭

第5学年 国語科 「よりよい学校生活のために」

～友達と仲良くなる取り組みを考えよう

両宮 正 教諭

第6学年 国語科 「資料を使って、効果的なスピーチをしよう

今、私は、ぼくは」

岡村 理恵教諭

すみれ(知的)学級 2年国語科 「おはなしできるかな」

筒井 ひさ美教諭

つくし(情緒)学級 自立活動 「山小屋で三日間すごすなら」

矢崎 さつき教諭

第5学年 理科 「流れる水のはたらき」

金井 巖 教諭

(4) 「話すこと・聞くこと」に関わる環境の整備

ア. 全校で統一した掲示物の作成「話し方・聞き方 あいうえお」

イ. 発達段階に合わせた話型カードの作成「話し名人・聞き名人」

ウ. 言語活動ハンドブックの活用

エ. 「言語活動実践例」の作成と活用(3年目)

2 学級集団づくり

(1) Q-U 検査(全学年)実施とK13法による分析・アタックシートの作成・活用の充実

(2) 支援が必要な児童への関わり方についての学習会(特別支援教育の視点から)

3 ICT 機器の活用

- (1) タブレット技術向上のための学習会
- (2) プログラミングに関わる学習会
- (3) タブレット活用実践例の作成と活用(2年目)

II 成果と課題

I 成果

- ・本校児童の課題である「話すこと・聞くこと」に焦点を絞り、全職員の共通理解のもと、取り組める研究主題であった。また、昨年度と組織の形態を変えたことで、授業研究や教材についてより深く研究することができた。
- ・何度も研究会を重ね、授業を作り上げたことで、素晴らしい組織研究ができた。指導の工夫や授業の進め方など、細部まで練り上げられていて、学ぶことの多い充実した研究授業であった。また、研究授業以外でも同じ分野で検証を重ねることができ、手応えを得ることができた。
- ・研究テーマを念頭において実践や参観を行った。それぞれの実践について共有化を図り、学ぶことができた。
- ・環境づくり部会が中心となり、「話し方・聞き方 あいうえお」「話し名人・聞き名人カード」が作成された。全校統一の掲示物や「話すこと・聞くこと」に関わる指導内容の環境整備ができた。

2 課題

- ・「話すこと・聞くこと」について大事な要素は生かすことができたが、一実践以外でのハンドブックの活用が十分になされていなかった。活用例を生かせるようにしたい。
- ・プログラミングやタブレットに関わる研究ができたことは意味があり、必要に応じて活用することが出来た。しかし、その頻度は高くはなく、今、求められているような活用状況には至っていない。
- ・一実践の時期を研究授業の前に行い、授業者の参考になるようにすすめられるとよかった。また、共有化の時期が授業と離れていたものもあったので、時期が工夫できるとよかった。
- ・今後は制作物を活用していくと同時に、発表の機会など教室環境以外の環境も整えていく必要がある。

III 成果物

- 1 研究授業・一人一実践授業の指導案, 使用した教具, ワークシート
- 2 掲示物「話し方・聞き方 あいうえお」
- 3 「話し名人・聞き名人」カード
- 4 言語活動実践記録(3年分)
- 5 タブレット活用の記録(2年分)

(研究主任 向山 紀子)